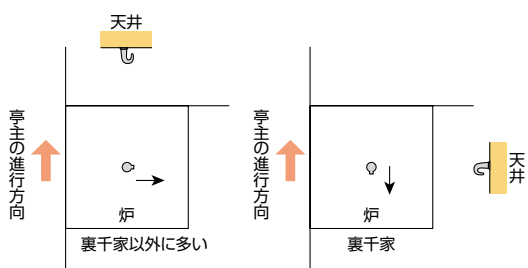
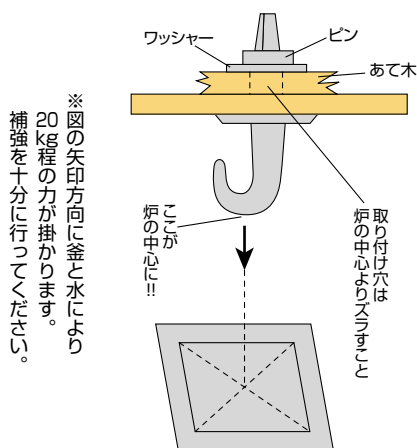
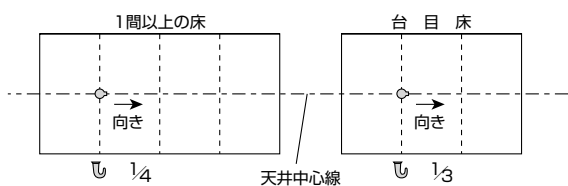


**SKK-306 釜蛭釘（栓差し）大**  
**SKK-308 釜蛭釘（栓差し）小**

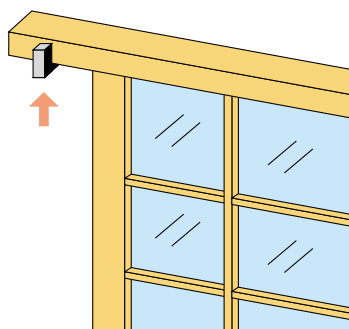


**SKK-316 花蛭釘（ネジ足）**



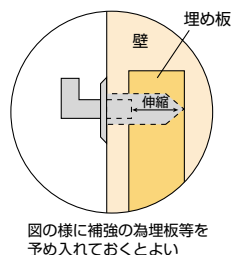
**SKK-323 障子掛釘**

窓に障子を掛ける時、通常左右と下中央（3本1組）で使用。



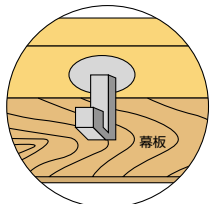
**SKK-326 無双釘**

軸を痛めない様工夫された伸縮自在の釘で壁に花入を掛ける時使します。位置は床の間奥の壁正面に一重折釘より5分（1.5センチ）から1寸（3センチ）程下げて打ちます。



**SKK-333 二重折釘（打込）**  
**SKK-334 // （ネジ足）**

幕板がある場合、床の横幅中央に廻縁下から打ち込みます。向きは手前正面にて。



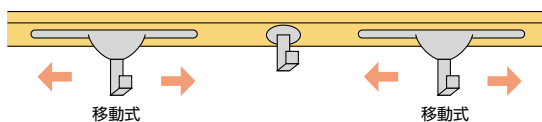
**SKK-309 ドラ釘（栓差し）**

水屋天井の適当な場所へ打つか、又は銅鑼杵という独立した専用の木杵天柱の中央に打つ。

**SKK-310 喚鐘釘（栓差し）**  
**// （ねじ足）**

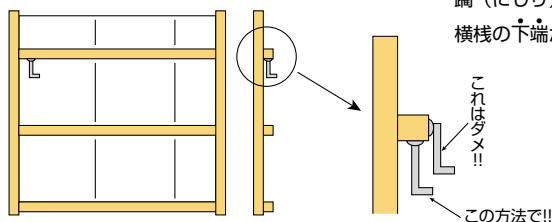
書院又は琵琶床などの天井前後左右に手前を向けて打つ。

**SKK-311 稲妻走り釘三幅対**



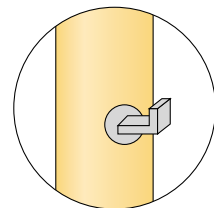
三幅の軸を掛ける為の釘。七尺床以上の床の間に。左右は移動式で横柱に細い溝を切る加工が必要です。

**SKK-312 ニジリ釘**



**SKK-317 ドラ釘（ネジ足）**

水屋天井の適当な場所へ打つか、又は銅鑼杵という独立した専用の木杵天柱の中央に打つ。



**SKK-320 一重折釘（打込）**

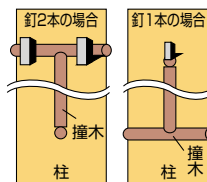
**SKK-321 // （ネジ足）**

**SKK-321 // （打込小）**

床柱に掛ける花入用の釘で、使用する掛花入の大きさ等により打つ位置を決める。およそ床框から上へ3尺3寸（100センチ）～3尺9寸（145センチ）程であり主観で決めればよい。

**SKK-324 撞木釘（座なし）・折釘**

喚鐘を叩く時に使用する撞木を掛ける釘で通常本床と琵琶床の境目の柱に床より4尺6寸程度上に打つ。



**SKK-327 隅打釘（柳釘）**

**SKK-328 平釘（柳釘）**

床の左奥の隅に打ちます。柳掛けを掛ける為の釘で、天井廻縁下端より9寸～1尺のところ。

